

特別講演「福島原発事故から惹起された放射線被ばく線量の考え方」

講師：日本放射線公衆安全学会 会長 諸澄 邦彦

聖マリアンナ医科大学ブレスト&イメージングセンター

前里 美和子

諸澄氏からは、福島原発事故の際テレビ出演された時の経験、日本診療放射線技師会の活動報告、相談、放射線被ばくの影響、外部被ばく・内部被ばくの計算法、放射線被ばく相談委員についてなど、多岐にわたるお話がありました。中でも一般の方に放射線の影響について伝える事の難しさについては相談に来られる方の不安、知識に応じた対応が求められる事など改めて考えさせられました。また、「我々診療放射線技師は放射線を管理できる立場なので、災害対策のみでは無く、施設の医療被ばく線量の数値を把握し、同じ施設の技師、地域の技師は同じ認識、数値（単位も）で間違いなく説明できることが重要」と述べられていました。今後は、線量測定、計算等を行った後の情報共有が課題だと感じました。福島原発事故以降、放射線被ばくに関する国民の関心が高まっている中、私たち診療放射線技師の役割や責任について考える良い機会でありました。今後もこのようなセミナーに参加して研鑽を重ね、相談に対応できるように努めていきたいと考えます。



講師の諸澄先生

